

# 移動の選択肢がある社会をめざして —「やさしい交通しが」設立3年間の取り組み—

宇都宮浄人、南村多津恵、山田和昭

人と環境にやさしい交通まちづくりプラットフォーム滋賀（やさしい交通しが）

<https://yasashiikotsushiga.wixsite.com/machizukuri/about-1>

[yasashii.kotsu.shiga@gmail.com](mailto:yasashii.kotsu.shiga@gmail.com)

## はじめに

「第11回人と環境にやさしい交通をめざす全国大会」で集った仲間が軸となり、「人と環境にやさしい交通まちづくりプラットフォーム滋賀（愛称：やさしい交通しが）」というチームが出来上がった。本稿では、この3年間、滋賀県で交通まちづくりの輪を広げようと奮闘してきた「やさしい交通しが」の取組を紹介したい。

## 1 まちづくりと交通の広場しが 2023

きっかけは、近江鉄道の上下分離決定であった。上下分離によって、鉄道インフラが地域のものになる。しかし、多くの人にはそんな意識はない。そこで、2024年の運営体制変更の前に、滋賀県民の意識を変えたいという思いで、チームを立ち上げ、「まちづくりと交通の広場しが 2023 近江鉄道線を活かした交通まちづくりフォーラム」を実施した。2023年9月のプレ企画に始まり、2024年2月までにフォーラム4回、フィールドワーク2回、フォローアップ企画3回を実施した。こうした活動ができたもう一つの背景は、国土交通省の地域交通共創モデル実証プロジェクトに採用されたことにある。したがって、私たちの活動は、滋賀県で次代を担う交通まちづくりの人材育成に焦点を当てた。

「鉄道をどうするか」という議論が続いた滋賀県で、私たちの戦略は「鉄道でどうするか」を問いかけた。自分たちのものの使い方を地域が考えなければいけない。駅あり、広場あり、近江鉄道は単なる移動手段ではない。フィールドワークで現地を探り、第4回、最後のフォー

ラムでは、参加者が一人ひとり近江鉄道を活かしたプロジェクトを提案した。奇抜なアイデアに会はととも盛り上がった。

けれども、私たちの活動は単なる提案で終わらない。フォーラムに集った新しい仲間とともに、それを実践することを次の目標に掲げた。

## 2 プロジェクト提案を実践

2024年、提案から生まれた実践は3本立てとなった。ジオラマプロジェクト、駅バル事業、コミュニティ・モバイル・カレッジである。ジオラマは、高校生や大学生とともに、駅やまちのジオラマ制作を通じて、近江鉄道駅周辺の理想のまちづくりを学び、社会に発信しようという企画だった。参加者は多くなかったが、2023年に新たに仲間となった提案者の指導で、駅とその周りに空想を巡らし、ジオラマを作り上げることで、プロセスとしての学習、そして完成した時の達成感を味わうプロジェクトとなった。

駅バル事業は、近江鉄道のガチャフェスに駅バルを出店というものだったが、ここでも重要なのはバルを出店するプロセスだった。ガチャフェス当日は、天候が悪く、バルやカフェが当初思い描いたようにお客が来たとはいえないが、事業を進めるプロセスは、全体マネジメントも含め、貴重な体験となった。また、2023年から加わった仲間が仲間を呼ぶ形で、若者に輪が広がったという収穫もあった。

コミュニティカレッジは、誰かが何かを教えるカレッジではなく、近江鉄道沿線で地域活性化を行うプレーヤーが語るという企画だった。

結果的には 2023 年には 1 回だけの開催になったが、糸・染め・縫製の関係者が集い、100%近江産デニムを作ろうという夢に、近江鉄道沿線に改めて愛着がわいた参加者は多かったはずだ。

### 3 ビジョンを決めて滋賀全域に発信

2 年間の活動を踏まえつつも、私たちには、さまざまな問題意識があった。2024 年度、メンバーの二人が滋賀県の開催する滋賀地域交通ワークショップのファシリテータを務めて感じたことは、県民の間で交通とまちの関係が知られておらず、行政との意識の乖離も大きく、そうしたことが貧弱な地域交通の問題の解決を阻んでいるというものだった。そこで、滋賀県に相談を持ちかけ、協力を得ることで、「市民が市民に伝える」フォーラムの開催を計画した。

私たちは、フォーラムを開催する前に、ビジョン会議を半日開催し、改めて私たちの会のビジョンとミッションを以下のとおり定めた。

#### 【ビジョン】

- ・移動の選択肢がある社会
- ・生まれてからずっと 100 年後も幸せに暮らせる社会

#### 【ミッション】

- ・市民の関心を高め、仲間を増やす
- ・市民・行政・交通事業者をつなぐ

2025 年は、これらのビジョンとミッションの下、「まちと交通の未来づくりフォーラム」と題して、2 回の全体フォーラムと 3 か所でのフィールドワークを実施した。各フィールドワークは本論集の別稿に委ねるが、最後のフォーラムでは、参加者がグループワークで考えた「明日から自分はこうする」といった宣言の発表もあった。

そして、私たちは本フォーラムを通じて参加者から集まった意見をまとめ、提言を発表した。ビジョンと、「地域みんなで取り組もう」を抜粋したものが以下である。

#### 【まちづくりと交通の広場しがからの提案(一部)】

ビジョン  
 ・移動にあたり、不便をがまんしなくていい。  
 ・移動のために、進学を選択肢をあきらめなくていい。  
 ・送迎のために、自分の時間を無理に割かなくていい。  
 ・自分の移動のために、社会環境を悪くすることがない。

- (地域みんなで取り組もう)
1. 公共交通「で」社会を良くする  
 駅やバス停を核にしたまちづくりでにぎわい創出、健康的で、会話のある、心地よいまちに
  2. 公共交通「で」環境を良くする  
 自動車の交通量を減らし、温室効果ガスの排出を削減、渋滞を減少させ、効率的で、公正なまちに
  3. 公共交通「へ」投資をする  
 がまんして使う公共交通から、使いたくなる公共交通へ、自動車よりも早くて便利で楽しい機関を育てる
  4. 公共交通「を」徒歩や自転車との連携でもっと活かす  
 暮らしやすいまちは、安全で、あちこちで交流が生まれるまち。歩く人や自転車に乗る人にやさしい道と公共交通をつくる
  5. 交通「は」みんなで育てる  
 地域全体が関わって良くする、市民が主役と心得よう

### 4 おわりに

私たちの 3 年間の活動の成果、ビジョン達成に向けてできたことは 3 点ある。第 1 に仲間が増えたこと、第 2 に各種活動団体や学生団体等にネットワークが広がったこと、第 3 に滋賀県としっかり手を組む関係になったことである。これらは次の段階に向けて大きな意味を持つ。

むろん、課題も多い。この 3 年間国土交通省の補助金を得られたが、こうした市民活動を持続するしよみの必要性を実感する。また、メンバーの一部にかかる過度な負担の軽減も、市民活動を長く継続するうえでは大きな課題だ。

ただ、最後に付け加えるなら、夢に向かって仲間と活動する日々は楽しく、充実感もある。全国の活動仲間と、さらに夢と希望を、そして成果やノウハウを分かち合っ、交通まちづくりを日本中で進めるために、今後も頑張りたい。